

公表

事業所における自己評価結果(児童発達支援事業)

事業所名		米沢市立ひまわり学園		公表日		令和8年 2月 2日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		その日の活動内容に応じて、部屋を分けて活動している		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		職員の配置基準の人数を配置している。安全面を考慮した上で、個別の対応ができた		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		一人ひとりの特性を踏まえて環境を整えている。視覚支援では写真、イラスト、コミック絵表示等で見やすく分かりやすい掲示をしている。玄関の階段、廊下の手すりを設置しており、バリアフリーの構造になっている		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎月、施設及び遊具安全点検を実施している。毎日の清掃と共に、直接触れた玩具等は毎回清潔にして提供している 場面に応じて、パーティションを使い部屋の中でも個別の空間をつくり活動している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		事前、事後会議、支援会議を行っている。参加できなかった職員は、連絡帳を使って申し送りをし、振り返りを大切にしている		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者の方に頂いたご意見、ご要望について職員全体で見直しを行い改善につなげた		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		事前、事後会議、職員会議、園内研修で、事例を出し合い意見交換をしながら、業務改善を行っている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		第三者による外部評価を得ることで、より良い意見を頂き改善につなげている		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		他施設への現場見学、公開研修会、園内研修発達障がい勉強会に職員は積極的に参加し、スキルアップにつなげている。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		社会福祉協議会のHPにて公表を行っている		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者、利用児の方の要望を踏まえた支援計画を作成している		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		全職員で支援会議を行い、共通理解の下で、支援計画を作成している		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		支援計画書に基づいた、日々の目標を設定している		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		遠城寺式発達検査や発達チェック表を使って行っている。毎日の事後会議等で、一人ひとりの行動や変化などについて確認し合い、記録を活かして支援している		

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		一人ひとりの利用児に合わせて分かりやすい内容でまとめている	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		月案をもとに、各週毎に設けたチーフの指導員を中心に行っている	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用児に合わせて、同じ活動プログラムにならないよう工夫をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援計画に基づき、個別活動を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎朝ミーティングを行い、前回の振り返りや個別の申し送り、当日の流れ、活動、役割分担を職員間で確認し合い連携して支援を行っている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日記録に残し、全職員が把握できるようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		利用児の状況をよく理解できるように、日々の記録をとり、関係機関と電話や訪問での連携を行っている	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援事業所や園、就学先と連携を行っている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の希望に基づき、繋がりのある支援が行われるようサポートファイルの活用、移行に向けた申し送りを実施し相互理解を図っている	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	○		地域の児童発達支援事業所が集まる支援ネットワークへの参加、連絡協議会、公開研修会の開催等で情報を交換し連携を図り、地域全体の質の向上を目指している	
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		職員が、積極的に研修に参加できるようにしている。全職員の資質向上を目指している	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		地域の会議に参加する等、情報交換、地域連携に努めている	
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		管内の支援センターを見学し交流する機会を設けている	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		公立保育園との交流保育を実施している		
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		卒園児の状況を電話や対面で聞き継続支援につなげている 送迎時の報告と連絡ノートでその日の活動状況を丁寧に伝えている		

保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者研修会、ひまわりカフェ、ペアレントサポート講座を定期的で開催し、ご家族が情報を得る機会を提供している	より多くの保護者に参加していただけるよう、時間帯や、関心をもって頂ける内容を工夫していく
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時と、年度初めに説明会を開催している	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者の思いを確認し、利用児の発達状況から作成できるよう機会を設けている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援計画書を書面でお渡しし、口頭で説明を行い同意を得た後にサポートファイルに綴っていただいている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		必要に応じて面談を行い、スーパーバイズの助言、支援を聞きとりながら相談を行っている。保護者の同意を得て家庭訪問や、電話での支援を行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		ひまわりカフェ等で、保護者同士の交流の機会を設けている。イベントで、兄弟姉妹参加を呼びかけている	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者から利用日変更希望の相談があった時など、迅速に対応している	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		園だより、ひまわり通信の発行、イベントの案内を発行している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護規定に基づき適正な取り扱いに努めている。各書類は鍵付きキャビネットに保管している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		おたよりにルビを振る等、読みやすいように配慮している。絵カード、写真を使って、分かりやすく伝える等の配慮を実施している	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の文化祭や市内の作品展に出展している行事では地域のボランティアの協力を得て開催している		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		毎年マニュアルを確認し、全職員が共有して想定訓練を行いながら、もしもの場面に活かした	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		毎月訓練を実施している	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		持病をお持ちの利用児の対して、対応マニュアルを作成し全職員間で共通理解に努めた	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		伝達訓練を実施し各家庭に周知を行った	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		これまでのヒヤリハットの事案を振り返って見直し、人的配慮、危険な場所等再確認をしている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待についての研修を受けた職員から伝達講習を受け対応を学んだ。虐待防止委員会を開き、虐待発生時の関係機関と周知が連携できるよう努めている	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		保護者には入園時に説明を行っている	あくまでも緊急時に対応が必要と判断した場合に限り、保護者同意を得て検討していく